

KnowBe4

Human error. Conquered.

セキュリティ意識向上トレーニングプラットフォーム「KnowBe4」

「社員一人ひとり」に“ヒューマンファイアウォール”を根付かせるための
セキュリティ意識向上トレーニングとは

「人の脆弱性」を狙うサイバー攻撃が増加、金銭被害も甚大に もはやセキュリティ製品では守り切れないような被害が



独立行政法人情報通信処理機構が本年1月に公表した「情報セキュリティ10大脅威 2020」*では、右の3つの脅威がメールを使ったサイバー攻撃という事からも、対策が大きな課題となっています。

- 1位 標的型攻撃による機密情報の窃取
- 3位 ビジネスメール詐欺による金銭被害
- 5位 ランサムウェアによる被害

* 出典:「情報セキュリティ10大脅威 2020」(独立行政法人情報処理推進機構が2020年1月29日に公表) <https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2020.html>

従来のセキュリティ対策は、ファイアウォールなどと言うところのネットワーク層やアプリケーション層など7つのレイヤーでサイバー攻撃を検知、防御してきました。しかし、従来の対策では「人を騙すタイプ」のサイバー攻撃から守ることはできません。



新たに「人のセキュリティ意識」という
8つ目のレイヤー『ヒューマンファイアウォール』
が必要なのです!

Human Firewall



- 8. “セキュリティ意識向上”層
- 7. アプリケーション層
- 6. プレゼンテーション層
- 5. セッション層
- 4. トランスポート層
- 3. ネットワーク層
- 2. データリンク層
- 1. 物理層

ヒューマンファイアウォールを育成する「KnowBe4」の3つの特長

特長 1

「セキュリティ意識向上トレーニング」と 「フィッシング攻撃のシミュレーション」を組み合わせた 世界最大の統合型社員教育プラットフォーム

KnowBe4は、以下3つの要素を一元管理、効果測定する事により今まで把握できなかった「個人」、「部署」、「組織」それぞれのリスクレベルを可視化します。そこから最適な対策を施し、従業員のセキュリティ意識の向上に寄与します。

① 社員教育プログラム (TRAIN):

多言語に対応した1,100種類以上の充実した動画ベースの教育コンテンツ

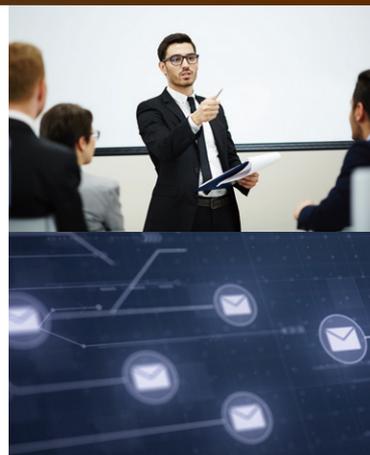
② 模擬攻撃の実施 (PHISH):

豊富なテンプレートを活用し、標的型メール等、本番さながらの攻撃疑似体験

③ 分析・効果測定 (ANALYZE):

どの社員もしくは部署がどのような脅威に対して意識が低いのかを測定。
その結果をふまえて教育プログラムの見直し

➔ 一元管理が可能! 効果測定と教育プログラムの見直しが簡単!



特長 2

動画コンテンツを軸にした「新しい学び方」を提供

従来のセキュリティ教育のコンテンツは、静止画を基本としていましたが、KnowBe4では、動画による教育コンテンツを中心とし、受講者のモチベーションを高める工夫がなされています。

➔ 映画さながらの動画による教育、モチベーションもUP!



特長 3

年間サブスクリプション・モデルでの提供

教育コンテンツやフィッシング攻撃などのサービスは、期間内であれば無制限で利用可能。必要な人に必要な教育を継続的に提供可能です。

➔ 多言語対応した1,100種類以上の最新のコンテンツが見放題!
4,700種類以上のフィッシングMailテンプレートも期間中、何回でも使い放題!

